

大宮駅周辺地域戦略ビジョン

～おもてなしあふれる東日本の顔を目指して～

1. はじめに

大宮駅は埼玉県内最大のターミナル駅であり、同じく県内最大の“商都”大宮の玄関であるばかりでなく、上越、東北新幹線等が走り、東京への通勤・通学の中距離電車などが交差するなど鉄道交通の要衝である。JR 東日本によると2008年度1日当たりの大宮駅の乗車人員は24万人と新宿、池袋駅などについてJR 東日本管内で第8位である。

しかしながら大宮駅周辺地区、ことに東口地域のまちづくりは遅れ自らのまちが持つ機能性やポテンシャルを十分に発揮しているとは言い難い状況にある。そこで今般、約2年間の議論を経て市民、事業者、行政の協働によって取りまとめられた大宮駅周辺地域戦略ビジョンが発表された。本稿では同ビジョンの概要を紹介することとした。

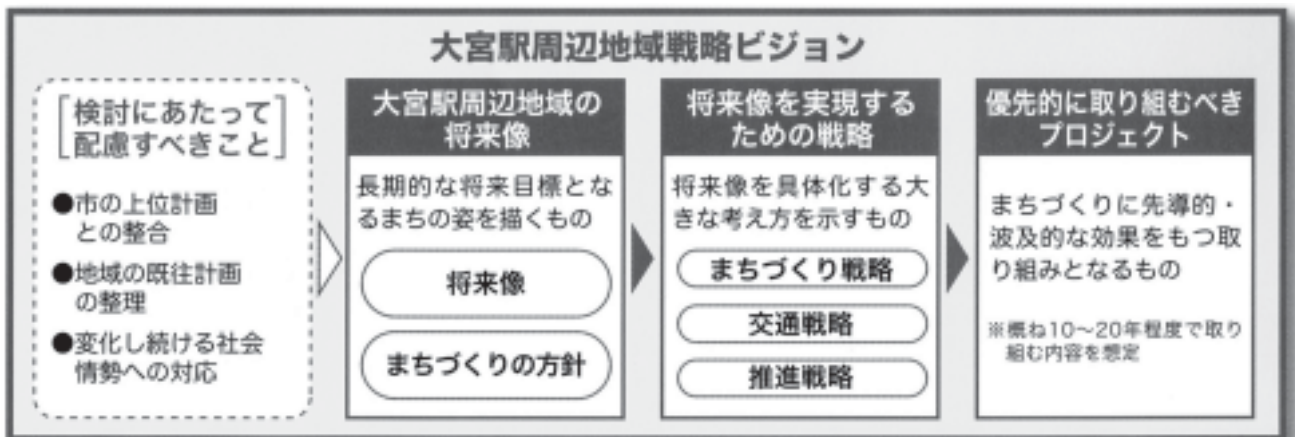
2. 大宮駅周辺地域戦略ビジョンの概要

(1)大宮駅周辺地域は交通の結節点であると同時に、商業をはじめとする様々な都市機能が集積するなど、高いポテンシャルを持つ地域であるにも関わらず、慢性的な交通渋滞、インフラ整備の遅れや商都大宮をとりまく環境の変化など、様々な問題を抱えている。そこで、このような課題に対応しながら大宮駅周辺を政令市であるさいたま市の「顔」にふさわしい地域にしていくことを目的としている。

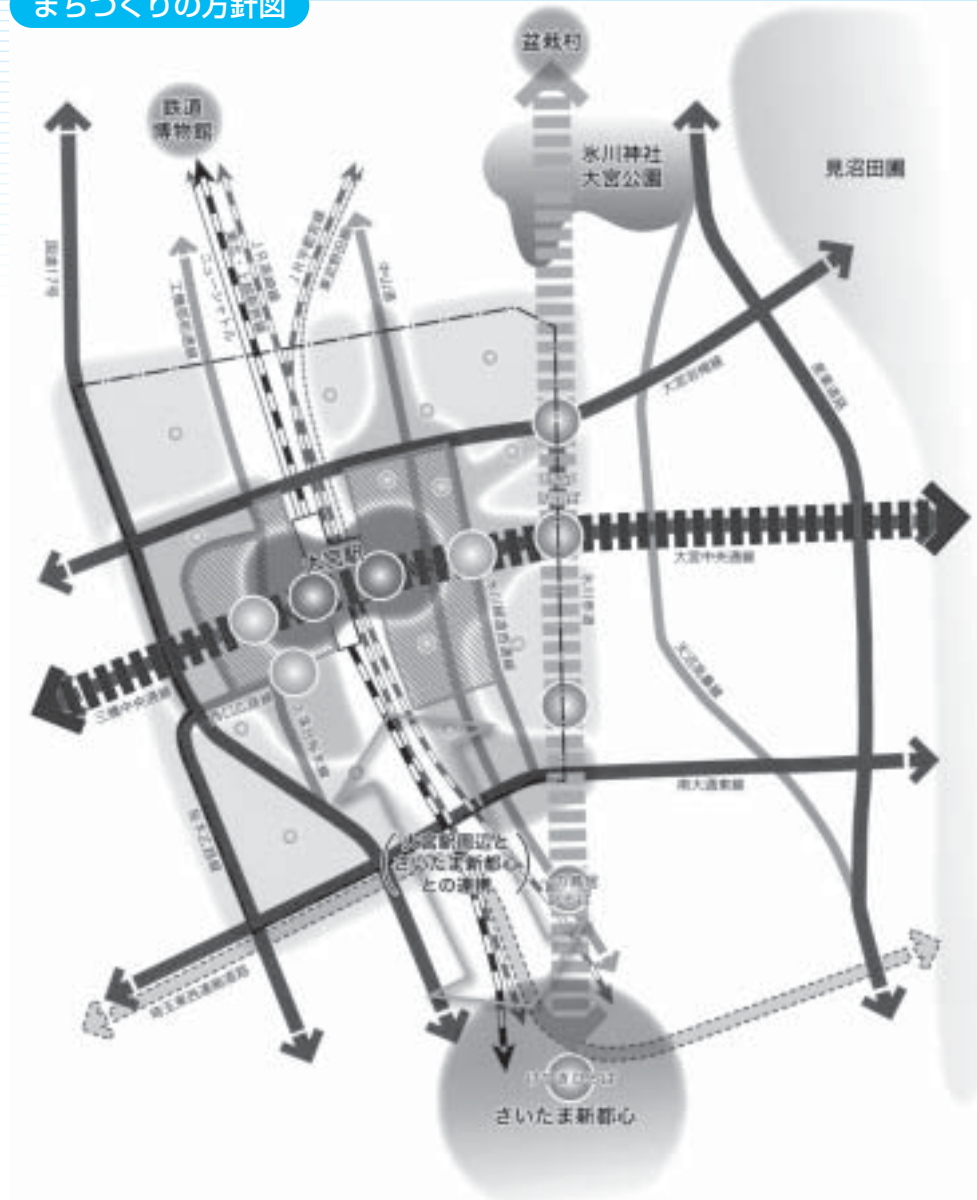
(2)民間と行政の協働によって目指すべき「将来像」とその実現に向けた「戦略」を示すとともに、まちづくりを着実に進めるために「優先的に取り組むべきプロジェクト」を抽出した。

(3)策定に当たり地元、事業者と行政の「三位一体の推進体制」を構築し、2年間検討をしてきた。地元や市民の意向を把握し情報の共有を図る参加型の「意見交換会」を設置した。また学識経験者や地元・行政関係者が総合的な検討を行う「策定委員会」と分野別に詳細な検討を行う「まちづくり分科会」「交通戦略分科会」を設置し、行政とともに多様な関係者が議論を重ね、ビジョンを取りまとめた。

大宮駅周辺地域戦略ビジョンの概要



まちづくりの方針図



■おもてなし都心ゾーン

ターミナル街区
(駅周辺ゾーン)

おもてなし
機能集積ゾーン

駅周辺複合
市街地ゾーン

- 大宮駅とその周辺街区が一体となり、交通の要衝、まちの玄関としての機能強化を図ります。
- 既存の商業・業務集積エリアを中心に、多様性のある商業機能や高次業務機能などのおもてなし機能を展開します。
- 地域の周縁部では、都心生活を豊かに享受できる住宅・商業・業務機能が適切に複合する市街地を形成します。

■シンボル都市軸

東西シンボル
都市軸

水川参道
歴史文化軸

- 地域の中心を東西につなぐシンボル軸を形成し、都心の多様な活動を支えるとともに、駅からの眺望を確保しつつ、沿道整備を行います。
- 水川参道沿道では、水川の歴史・文化を継承するため、沿道環境の保全と適切な活用を図ります。

■おもてなし体感空間

おもてなし
歩行エリア

おもてなし
ひろば

駅前
ひろば

まちなか
ひろば

社の
ひろば

ヨコ
ひろば

- あらゆる人が街を楽しみながら、快適に、安全に、安心して過ごせる歩行空間を道的に創出します。
- 都心での多様な活動を支える機能や、都市の安全性や環境向上に資する機能などを備えたひろば空間を創出します。

■都心活動を支える交通基盤

外周
道路

地域内
幹線道路

- 通過交通と公共交通を含む地域アクセスの役割分担を図り、おもてなしのまちづくりを支えます。

3. 検討経過

平成20年6月26日にキックオフ・ミーティングとも言うべき第1回策定委員会が開催され、大宮駅周辺の現況と課題の分析や地域戦略ビジョンの展開方向について議論された。その後策定委員会は戦略ビジョンのとりまとめを議題とした平成22年4月5日の会合まで7回開催された。いずれの会も多くの市民が傍聴に訪れ、議論の透明性を確保された形で進められた。

また策定委員会と並行して、多くの市民や関係者の意見を掬い上げる場として意見交換会が開かれている。20年度は参加者の地域への思いや大宮駅周辺地域の将来像などが率直に議論され、21年度においてはワークショップ形式でテーマ別のまちづくりコンセプトがまとめられている。

21年度に入るとまちづくり、交通戦略の2つの分科会が組織され、今後の戦略について議論されてきた。このように2年間のなかで幅広く、多層の関係者や市民の参加によって取りまとめられた。

4. 大宮駅周辺地域の将来像

このビジョンによってさいたま市が目指す大宮駅周辺地域のまちづくりの将来像は以下の3点をあげている。

(1)東日本の顔となるまち

東京中心部、北関東・東北地方や上信越地方と連携し、多様な都市活動が展開される東日本の交流拠点都市として、さいたま市の「顔」として、市民が誇りに思えるまち。

(2)おもてなし、あふれるまち

大宮らしさを感じさせる様々な場所の個性を活かした「おもてなし」にあふれる地域として、初めて訪れた人も、通勤や通学で毎日通っている人も、住んでいる人も、楽しめるまち。

(3)氷川の杜、継ぐまち

豊かな都市生活を守り、育て、継承していく地域として、氷川の杜に象徴される地域資源活用、環境負荷の低減や高齢化社会への対応、次世代の育成などに取り組むまち。

5. 実現のための戦略

大宮らしさを大切に大宮ならではのまちづくりを進め「将来像」を実現するために、まちづくり、交通、推進の3つの戦略をもって取り組むこととなる。

(1)まちづくり戦略

①機能強化戦略 拠点都市として強化する戦略

商業・業務・交流・情報・文化・観光等の都心機能を強化・発展させるとともに、さいたま新都心との活動連携を強化する。

都市基盤や建築物の更新等の課題をもつ市街地を再生することで、様々な機能導入の受け

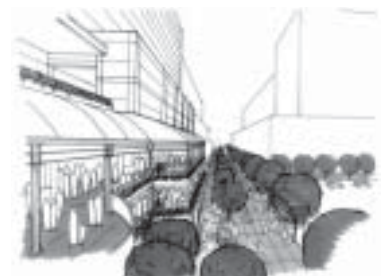
多様な商業空間のイメージ



落ち着いたある路地空間



賑わいがあふれる楽しい商業空間



開放的で緑豊かな商業空間

皿となる土地や床を創出するとともに、都市環境としての質の向上や都心地域の防災性の向上を図る。

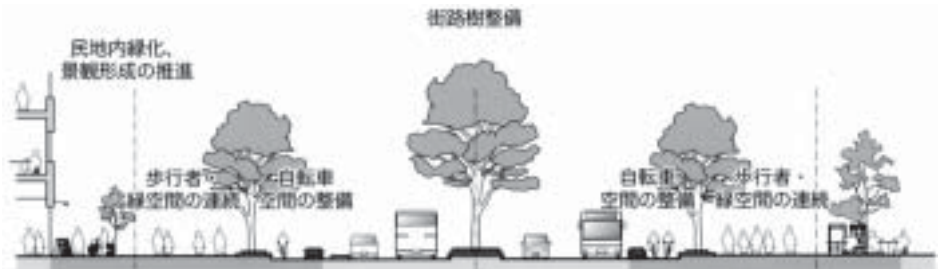
②にぎわい・おもてなし戦略 にぎわいのまち大宮を再生する戦略

歴史・文化等、それぞれの場所の個性を活かして地域全体の回遊性を高めることで、国内外の多くの人を大宮のまちの中にひきつけ、ビジネス、観光、文化・芸術活動の活性化を図る。

③シンボル戦略 大宮を象徴する顔・シンボルをつくる戦略

“大宮らしさ”をまちの魅力づくりやにぎわい創出に活かして、まちの顔にふさわしいシンボル空間を創出する。

シンボル都市軸の形成イメージ



④環境・情報戦略 都心ならではの環境配慮や情報技術活用を推進する戦略

広域的な環境ネットワークを形成し、地域的なエネルギーの有効活用に取り組む。また環境への意識向上、情報技術の活用など、社会に求められる課題に率先して取り組む。

(2)交通戦略

①交通基盤戦略 都心活動のモビリティを向上させる戦略

広域的な拠点性を持つまちにふさわしい交通体系を形成することで、首都圏や東日本だけでなく、海外とのつながりを強化するための空港や港湾へのアクセス向上を図る。

さいたま新都心との連携強化を図り駅東西の連絡の利便性を向上させる。

②おもてなし交通戦略 まちのにぎわいを支える交通マネジメント戦略

道路や駅前広場、駐輪・駐車場等の交通施設について、情報技術の活用も含めて対策を講じ、すべての人が安全に楽しくぶらぶら歩きを楽しめる人優先の歩行空間を確保する。

③モーダルシフト戦略 人と環境にやさしい交通体系へ転換する戦略

環境負荷の低い交通手段を取り入れることで、地球にやさしく、高齢者や外国人を含む多様な人が快適に行きかうことのできるまちをつくる。

新交通システムの例

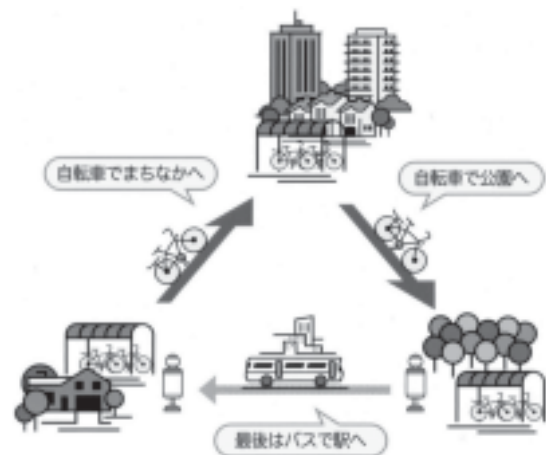


ストラスブール(仏)のLRT ルーアン(仏)のBRT

パークアンドライドの普及促進



都市型コミュニティ サイクルシステムの活用例



(3)推進戦略 地域が一体となって戦略ビジョンを具体的に展開する戦略

6. プロジェクトの推進について

戦略ビジョンのプロジェクト推進については、「歩きたくなることから始めよう！」とのコンセプトで以下を優先的に取り組むべきプロジェクトとした。

(1)大宮駅周辺の既存事業の推進

大宮駅周辺地域において、①大宮駅西口第四土地区画整理事業、②中山道、③銀座通り、④氷川緑道西通線などの継続的に実施してきているまちづくり関連事業は引き続き推進していく。

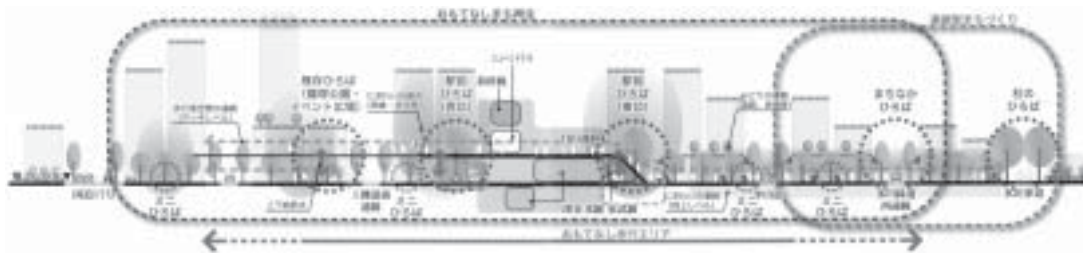
(2)民間による街区再編の促進・支援

関係権利者が中心となってまちづくりの機運が高まっていることから、主な内容としては、①大門町2丁目中地区市街地再編事業、②同地区を適地として移転構想のある「NHKさいたま放送会館」への正式交渉を進める、③地元まちづくり団体の支援など民間主導による街区の再生・再編の事業化を促進し、支援を行う。

(3)公共施設再編による「連鎖型まちづくり」の検討

大宮駅東口において、大宮区役所を始めとする老朽化や耐震性などの課題を抱える公共施設の更新と、その敷地を含む公共用地を活用したまちづくりの推進により、連鎖的に地域内のまちづくりの展開を検討する。

プロジェクトの推進によるまちづくりの展開イメージ



街区整備に伴う
歩行空間のイメージ



道路空間を活用した
オープンカフェ(カーフリーデー)



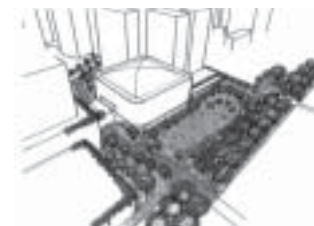
屋内型の
まちなかひろばのイメージ



既存の公園の活用例
(まちなかひろばのイメージ)



公開空地を活用した
まちなかひろばのイメージ



氷川参道や公共施設と一体と
なった杜のひろばのイメージ

7. 今後の展開について

戦略ビジョンで示された考えをプロジェクトを推進し具現化していくため、今後は民間が主体となって行う優先プロジェクトとしての「地区別整備計画」の詳細化や具体化を図っていくとともに、戦略ビジョンでの「おもてなし」の基本的な考え方を整理し、まちづくりのソフト、ハード両面から検討された「おもてなしガイドライン(仮称)」の策定を進めて行くことになる。

(資料提供：さいたま市都市局都心整備部大宮駅東口まちづくり事務所)